

殺処分ゼロを目指して

城北中学校 三年 榊原 古都実

私は犬が大好きです。明るくて穏やかな表情の犬を見ると、心が癒されます。しかし、ある動物番組で見た犬は、冷たい床に座って震えていたり、放置されて毛がボサボサな状態だったり、どの犬もとても悲しそうな目をしていました。何より人間の手で犬の尊い命を奪われているということがショックでした。私は殺処分がゼロになるよう、今できることをやってみたいと強く思いました。

犬を捨てる理由を調べてみると、経済的に余裕がなくなったから、ペット不可の物件に引っ越すから、飼い主が病気にかかったから、理想の生活と違ったからなど、人間の都合や自分勝手なものばかりでした。可愛いからと先のことを考えずに勢いだけで飼わず、最後まできちんと世話できるのか考えることが大切だと思います。また、犬を譲る側も経済状況、犬が過ごせる環境が整っているかを確認したり、世話をする大変さを理解させたりする必要があります。なぜなら私も犬を飼っていて、幼い頃のしつけはとて大変だったからです。トイレを覚えるのが遅く、失敗しては掃除するの繰り返しでした。名前や「まて」などの芸、ダメな事などを覚えさせるのに苦労しました。また、犬を捨てる人の中には、病気にかかったけれど、医療費が高く、介護できなくなった犬を保健所に預けて殺処分させる人もいます。犬は「物」ではなく「生き物」なので、犬の命が尽きるまで責任を持って世話するのが飼い主としての使命だと思います。

年々、殺処分数が減ってきています。それは、動物愛護団体や個人で保護活動を行う人が増えたり、保健所や動物保護センターなどの連携や協力があったりと、殺処分を防ぐ運動が活発になったからだと考えられます。動物番組でも、保護犬活動や保護猫活動をしている人がたくさんいることを知りました。

殺処分ゼロのため、私達ができることはたくさんあるはずです。例えば、今ペットを飼っている人は迷子にしない、避妊・去勢手術を行う、しつけをしつかり行う、最後まで責任を持って世話するなどです。また、犬や猫に触れ合いながらできるボランティアや世話の仕方に自信がなくてもできるボランティアなど、自分に合ったボランティアを探して殺処分を防ぐお手伝いができます。さらに、お金や餌、トイレシートなどの寄付で保護団体の応援ができます。自分ができることから積極的に殺処分ゼロを目指していきたいです。

ある動物番組で、殺処分ゼロを目指すために保健所や保護センターに行って保護し、人慣れできるように、一匹一匹に愛情を込めて育てる人達を見て、私は感銘を受けました。新しい家族に出会えるようにお散歩や食事はもちろん、人慣れするためのトレーニングや一匹一匹の苦手なことを克服できるようにそれぞれトレーニングしていることに驚きました。この人たちは寄付に頼らず、自力で運営をする為にカフェを

開き、チャリティーグッズを販売しています。さらに、これまでにたくさんの犬や猫を譲渡して、たくさんの人とたくさん犬や猫を幸せにできました。私はとても尊敬しています。これからも番組を見て、犬や猫との接し方などたくさん勉強しようと思えました。そして次は私が犬や猫を幸せにしたいと思えます。

殺処分ゼロを目指すにはまず、自分から動くことが大切だと思います。殺処分の現状を一人でも多くに伝えるため、SNSを活用したり、ボランティアや寄付の呼びかけをしたりしていきたいです。また、大人になったら積極的に保護犬活動を行い、私の大好きな犬が保健所の冷たい檻の中で悲しい思いをせず、何の罪もない犬が人間の都合によって殺されないよう、活動していきたいです。そして、まずは目の前のかげがえのない命を守り抜きたいです。